

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）について

目次

- 1 北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の概要 ……P2
- 2 有識者会議報告書 ……P4
- 3 札幌市内の工事状況等 ……P7
- 4 札幌市の対応 ……P10



提供：J R北海道

1 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の概要

（2025年3月 国土交通省公表資料「北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の整備に関する報告書（令和7年3月報告）〔参考資料〕」より抜粋）

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）概要

令和7年2月1日現在



路線の概要

- 総工事費
約23,200億円
- 完成・開業時期
・平成27年1月の政府・与党申合せにおいて、完成・開業時期を5年前倒し、「平成42年度（2030年度）末の完成・開業を目指す」とされている。
・令和6年5月8日、鉄道・運輸機構としては令和12年度（2030年度）末の完成・開業は極めて困難であると判断した旨、国土交通大臣に報告。
- 工事延長 約211.9km
路盤：約7.4km（約3%）
橋りょう：約5.3km（約3%） 全111箇所
高架橋：約30.3km（約14%）
トンネル：約168.9km（約80%） 全17箇所
※括弧内は、工事延長に占める割合
- 所要時間（乗換時間含む）
新函館北斗・札幌間：3時間17分 → 57分
新青森・札幌間：4時間37分 → 1時間55分
東京・札幌間：7時間46分 → 4時間55分
※最高速度320km/h化により、さらなる時間短縮効果が見込まれる
- 現行特急本数
特急北斗（函館・札幌間）：11往復／日

事業の進捗状況（令和7年2月1日現在）

- 用地取得率97%
- 土木工事契約率99%
（工事延長211.9kmのうち210.8kmで発注済）
- トンネル工事に伴う発生土量：約2,002万 m^3 （受入地確保率約95%）
うち、対策土：約688万 m^3 （受入地確保率：約90%）
無対策土：約1,314万 m^3 （受入地確保率：約99%）

3

2 有識者会議報告書

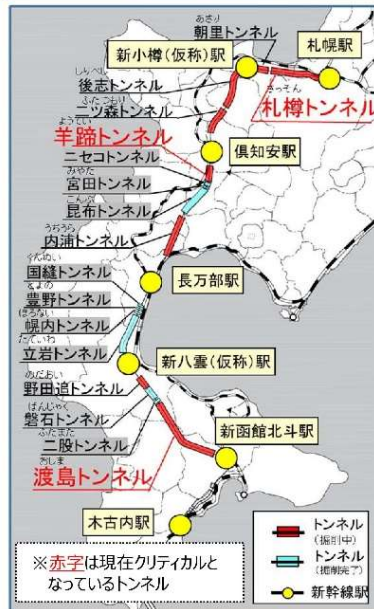
(2025年3月 国土交通省公表資料「北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する報告書(令和7年3月報告)」より抜粋)

北海道新幹線(函・札幌間)の整備に関する有識者会議報告書(令和7年3月)

背景・趣旨

- 北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)については、平成27年(2015年)1月の政府・与党申合せにおいて「平成42年度末(2030年度末)の完成・開業を目指す」とこととされていたが、掘削前のトンネル発生土受入地確保の難航や掘削開始後の予期せぬ巨大な岩塊の出現、想定を上回る地質不良などが生じ、工事が遅延。
- 令和6年5月には、鉄道・運輸機構(以下「機構」という。)から国土交通省に対して、**令和12年度末の完成・開業については極めて困難**と考えられるとの判断に至った旨の報告がなされた。これを受けて、国土交通大臣から鉄道局に対して、①機構からの報告内容が合理的なものであるか、②講じることができる方策がないか、有識者の知見も得つつ、改めて全体工程の精査を行うこと、機構においても、③開業に関する今後の見通しについての検討作業に対応するよう指示がなされた。
- これを受けて、鉄道局において本有識者会議を開催し、①②③について議論を行ってきた。本報告書は、本有識者会議における検討結果をとりまとめたものである。

検討体制



○「北海道新幹線(函・札幌間)の整備に関する有識者会議」

(敬称略、順不同)

<座長>

- 森地 茂 政策研究大学院大学 名誉教授

<委員>

- 小澤 一雅 政策研究大学院大学 教授
- 岸 邦宏 北海道大学大学院工学研究院 教授
- 野澤 伸一郎 JR東日本コンサルタンツ株式会社 常務取締役 技術統括本部長
- 三上 隆 旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部 学長

<オブザーバー>

- 今井 政人 北海道旅客鉄道株式会社 取締役副社長

【開催実績等】

R6/5/10(第6回), 5/27(現地視察), 6/5(第7回), 7/24(第8回), 9/11(第9回), 10/24(第10回), 11/18(第11回), 12/2(第12回), R7/1/28(第13回), 3/13(第14回)

○「地質不良対策等検討ワーキングチーム」(有識者会議と並行して開催し、工程短縮策を議論)

<メンバー> 国土交通省鉄道局・北海道開発局/土木研究所 寒地土木研究所/大手ゼネコン四社/トンネル技術協会/全国軌道業協会/日本鉄道電気技術協会/鉄道・運輸機構/等

【開催実績等】

R6/5/9(第1回), 6/3(第2回), 6/25・26(現地視察), 6/26(第3,4回), 7/16(第5回), 8/5(第6回), 8/21(第7回), 9/3(第8回), 10/8(第9回), 12/26(第10回), R7/2/19(第11回)

2 有識者会議報告書

(2025年3月 国土交通省公表資料「北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する報告書(令和7年3月報告)」より抜粋)

土木工程、設備工程、監査・検査工程 (報告書3.~5.)

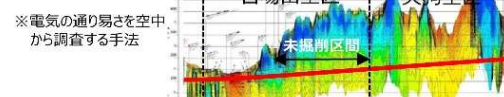
土木工程

- 土木工事については、クリティカルとなっている3トンネルを中心に見通しを議論。このうち、特に遅延リスクの高い工区は以下の通り。
- 見通しには、これまでの施工実績や把握できた地質状況を踏まえ、蓋然性が高いリスクを見込むとともに、「地質不良対策等検討ワーキングチーム」からの報告も踏まえてとりまとめた工程短縮策を考慮した。



- 上の見通しで見込んだリスク以外にも様々なリスクが存在。それらのリスクが発現した場合には、更なる遅れが生じる可能性がある。

・未掘削区間で想定以上に地質不良が継続
(長尺ボーリングは台場山、南鶴いずれの工区も目標の500mに届かず停止、空中電磁探査※の結果からも明確に地質境を示唆する結果は得られないなど、地質見通しには不確実性が残る)



・更なる岩塊の出現で掘進停止
(1箇所につき1年程度遅れるおそれ)



・想定外の対策土の出現に伴う受入地の不足



設備工程

- 当初工程には1年分の工程短縮策を盛り込み済み
- 労働時間規制の影響により、作業時間が91%に低減(+6ヶ月)

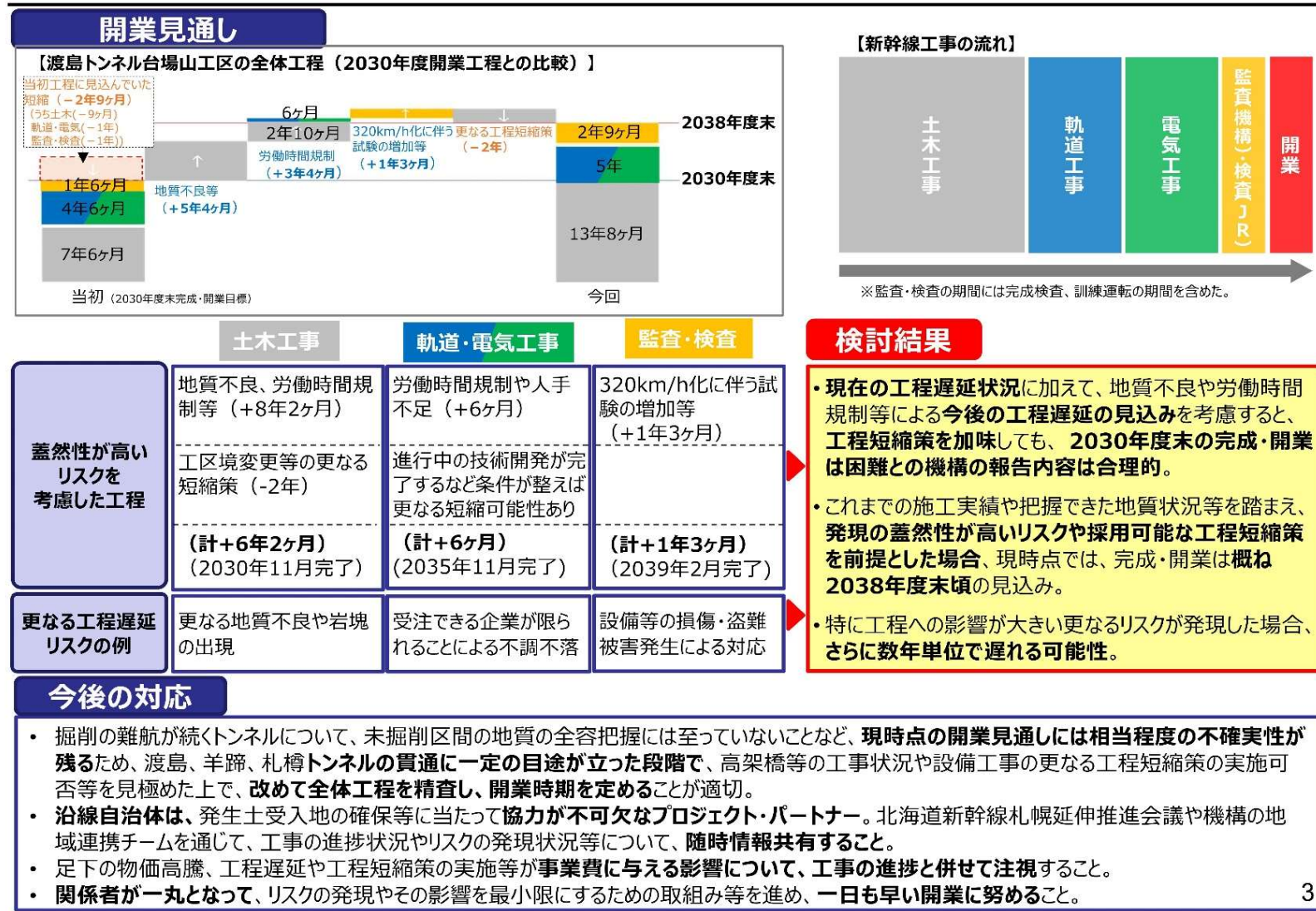
監査・検査工程

- 当初工程には1年分の工程短縮策を盛り込み済み
- 厳しい気象条件下での320km/h化に伴う試験の増加等(+1年3ヶ月)

2 有識者会議報告書

(2025年3月 国土交通省公表資料「北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する報告書(令和7年3月報告)」より抜粋)

開業時期に関する今後の見通し、今後の対応 (報告書6.～7.)



3 札幌市内の工事状況等

【札幌トンネル(富丘工区)】
手稲区富丘付近(2025年4月)

写真提供: 鉄道・運輸機構



【札幌トンネル(札幌工区)】
手稲区西宮の沢付近(2025年4月)

写真提供: 鉄道・運輸機構



【札幌駅高架橋】
中央区北5条西1丁目付近(2025年4月)

写真提供: 鉄道・運輸機構



【参考: 札幌車両基地高架橋(札幌駅から苗穂駅方を望む)】



(2023年5月 鉄道・運輸機構公表資料 札幌車両基地高架橋工事 工事説明会資料より引用)

【参考: 札幌車両基地壁面デザイン】



(2025年5月 鉄道・運輸機構 札幌車両基地壁面デザイン決定の報道発表資料より引用)

3 札幌市内の工事状況等

- 令和6年3月より札幌方の掘進を実施。令和7年5月1日時点で約610m掘進完了。
- シールドマシン後方設備の組み立てを完了し、令和6年10月末から掘削を再開したところ、現地の地質状況により、掘削進行が低下。
- 今後、JR函館本線をはじめとした重要構造物直下の掘進を予定。



札幌方掘進の様子



小樽方一次インバートコンクリート打設の様子

粘性土が
付着



カッタービット取り外し状況

(2025年3月 国土交通省公表資料
「北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)
の整備に関する報告書
(令和7年3月報告)」より引用)



シールド機(直径12.09m)

(2023年9、10月 鉄道・運輸機構公表資料
札幌トンネル(札幌)工事説明会
資料より引用)

(2025年5月 鉄道運輸機構公表資料「最新の工事進ちょく状況 札幌トンネル(札幌) 工事の状況」より抜粋)

3 札幌市内の工事状況等

【手稲山口発生土受入地】



【手稲山口受入地全景(2025年4月)】

写真提供: 鉄道・運輸機構



【手稲山口地域協議会】

【第12回地域協議会(2025年2月)】



●目的

手稲山口地区の北海道新幹線建設工事発生土受入地への発生土の受入にあたり、工事の安全性の確認とともに、地域課題の共有を図り、住民同士の意見交換やそれに基づく活動を通じて地域の活性化に寄与することを目的とする。

●活動

- (1) 発生土受入地における工事状況の確認
- (2) 発生土受入地の盛土工事完了後の跡地利用の検討
- (3) 手稲山口地区の地域振興のための課題の共有
- (4) 協議会の活動内容の情報発信
- (5) その他協議会目的の達成のために必要な活動

●参加者

山口西町内会、山口東町内会の居住者、農業従事者、事業者等

●2024年度の協議会概要

- ・手稲山口地区における「土地利用に関する勉強会」を実施し、各法令や制度の内容について共有
- ・これまでの協議会での意見交換結果等をもとに、受入地活用の考え方や視点を取りまとめた「受入地活用の方向性(案)」を提示

4 札幌市の対応

【2025年4月4日 北海道新幹線建設促進期成会 緊急要望】



●要望先：国土交通大臣

●要望主体：北海道新幹線建設促進期成会
(北海道、札幌市等沿線自治体、経済団体他)

●要望事項（要望書原文）：

- 1 有識者会議の検討結果や、その結果に至った理由等について、沿線自治体等地元関係者への丁寧かつ分かりやすい説明を速やかに行うこと
- 2 トンネル貫通の目途をできる限り早期につけ、改めて全体工程を精査し、一日も早く開業時期を明示すること
- 3 完成・開業の大幅な遅れに伴う各方面への影響を早急に把握し、影響の最小化に向け、国土交通省が主体的な役割を果たし、幅広い分野を包括的に支援する政策パッケージの作成などについて、政府をあげて検討・実施すること
- 4 事業費の増嵩に伴う新たな地方負担が発生しないよう、新たな財源の確保といった対策を講じること
- 5 今後も工期短縮に向けた検討を継続するなど、一日も早い完成・開業を目指すこと

【2025年4月13日 北海道新幹線札幌延伸推進会議】



●説明者：国土交通省鉄道局、鉄道・運輸機構

●出席者：北海道、札幌市等沿線自治体、経済団体他

●札幌市からの主な要望事項

- ・完成・開業が遅れることで、本来、得られるべき利益が先送りされる可能性がある
- ・こうした影響を最小限にするために、一日も早く完成・開業を目指していただくことに加え、国の支援を要望
- ・早急に工事費を精査し、各自治体の負担額も含めて、今後の見通しを示していただくとともに、新たな地方負担が生じないような適切な措置を要望

【今後の対応について】

- 北海道や関係団体と連携し、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の開業遅れの影響について、国土交通省が主体となった政府としての対応を求めていく